

資料 6

第 10 回宇宙産業部会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 5 月 22 日（木） 16:00-17:30
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
松本部会長、中須賀部会長代理、浦川委員、下村委員、白地委員、西村委員、仁藤委員、目崎委員、山川委員
 - (2) 事務局
西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨
 - (1) 「平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙産業部会の意見について
事務局から、資料 1 から 5 に基づき、第 9 回の宇宙産業部会以降、各府省等と委員との間で行った書面によるやり取りについて説明が行われ、追加の質疑応答等が行われた。その後、資料 6、7 及び参考資料に基づき「平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙産業部会の意見について、審議を行った。委員から以下のようないい意見等があった。
 - 画像を公開できる公共性のあるリモートセンシング衛星が必要。このようなりモートセンシング衛星は、民生、安全保障に利用できるだけでなく、技術基盤や産業基盤の構築等にもつながる。また、研究開発と実用面での連携については、平成 27 年度概算要求前までに、開発担当省庁と利用省庁の間で十分検討いただきたい。
 - 画像を公開できるリモートセンシング衛星は、利用産業の観点からも重要である。画像を公開し、それがプラットフォームとなって様々な利用ビジネスの試行が行われる土台が早くできることを期待している。
 - 宇宙機器産業及び宇宙利用産業を活性化することが重要。今後着手すべきリモートセンシング衛星のスペックについては、関係省庁間で十分に相談すべき。
 - 光データ中継衛星は、宇宙アセットの抗たん性に資するを考えるので、関係省庁間で密接に連携すべきである。
 - 新しい宇宙関連技術の産業化には軌道上実証を行う場が必要であり、上記の中継衛星などの場を活用し、可能な範囲で、技術実証を推進すべきである。
 - 衛星等に関する中長期のビジョン策定については、是非前向きに検討していただきたい。

審議の結果、資料 6 「平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙産業部会の意見（案）については、部会長一任で修正を行うこととして、部会として了承した。

以上